2022-23 年度　命の授業「白血病からの生還～命をつなぐバトン」

□ 藤井学園 寒川高等学校

担当 西岡洋子先生

日時 2022 年 10 月 21 日(金) 11:00～11:45

講師･演題 片島和司 ・ 白血病からの生還（患者の立場 ）

三好輝徳 ・ドナーって何？(ドナーの立場)

場所 体育館 ・ 対象 看護専攻科＋看護科＋普通科 計 424 名

住所 〒769-2322 さぬき市寒川町石田西 280-1 TEL 0879-43-2571

□ 香川大学RAC

担当 香川大学RAC 会長 宇野紗彩 副会長 諏訪雄一 副幹事 井添杜宇馬

日時 2022 年 11 月 24 日（木） 18:30～19:30

講師 後藤千英 ・ 演題 白血病 骨髄移植 献血 ドナー登録について

場所 香川大学幸町キャンパス 視聴覚教室

対象 香川大学RAC会員 15 名＋高松南RC 会長白井克彦他 3 名

□ 坂出第一高等学校

担当 3 年団主任 秋山道彦氏 校長 三谷雄治氏

日時 2022 年 12 月 07 日(水) 10:45～11.35 50 分間

講師 大谷貴子(公益財団法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 顧問)

演題 日本骨髄バンクについて

場所 4 号館 5F 記念館 ・ 対象 3 年生 138 名

住所 〒762-0032 坂出市駒止町 2 丁目 1-3 TEL 0877-46-2157

□ 香川大学創造工学部 献血

日時 2023 年 1 月 11 日 12:00～14:00

住所 林町キャンパス 高松市林町 2217-20 TEL087-861-2000

献血者数 受付 ４５名 採血 ４２名

□ 香川大学

名称 香川大学 命の授業『ヘルストピックス講演会』

形式 対面とオンラインの併用のハイブリット形式

担当 副学長 山神眞一氏 学生生活支援課長 成重伸昭氏

日時 2023 年 2 月 1 日(水) 15:00～16:30

講師 大谷貴子 演題 白血病からの生還～命をつなぐバトン～

対象 各学部全学年対象

場所 香川大学 イノベーションデザイン研究所 高松市番町４丁目８-27

第1回 『 命の授業 』　　2022 年 10 月 21 日

□ 藤井学園 寒川高等学校

担当 西岡洋子先生　　乃村久信校長

日時 2022 年 10 月 21 日(金) 11:00～11:45 （45 分間＋質疑応答）

講師 片島和司 （患者の立場 ） 三好輝徳 （ドナーの立場）

演題 片島(白血病からの生還)・三好(ドナーって何？)

対象 看護専攻科＋看護科＋普通科 計 424 名＋教職員

場所 体育館

住所 〒769-2322 さぬき市寒川町石田西 280-1　　TEL 0879-43-2571

集合 10:40 分に講師と関係者は、校長室へ （PC接続はそれまでに準備）

配布資料

- 骨髄バンクパンフ 500 部 （骨髄バンクより西岡先生宛て直送）
- 献血パンフ 500 部 （香川県赤十字血液センター依頼）
- 校内告知ポスター （ロータリークラブにて準備 A3 20 部 ）
- 講演会横断幕は学校にて準備

生徒の事後の感想では「ドナー登録についてもっと知りたい。」「健康な自分の体が誰かの役に立つことは素晴らしい事だと思う。」など多くの学びがありました。

「命」について考える大事な時間になったと思います。今後も献血活動などを通じて生徒の学びを深めていけるように指導していきたいと思います。（西岡教諭）

第2回　『 命の授業 』報告　　2022 年 11 月 24 日

□ 香川大学ローターアクトクラブ

会　長 宇野紗彩さん　　副 会 長 諏訪雄一さん

副幹事 井添杜宇馬さん　地区副幹事 大屋郁人さん

高松南RC 会長 白井克彦 ・ 地区RA 林 幸稔 ・ RA担当 田中 理

日時 ： 11月24日(金) 18:30～19:45

場所 ： 香川大学幸町キャンパス 視聴覚教室

講師 ： 後藤千英さん

対象 ： 香川大学RAC会員　15 名

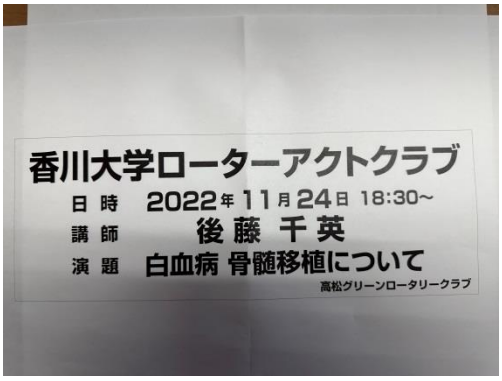
内容 ： 白血病 ・ 骨髄移植 ・ 献血 ・ ドナー登録

集合 ： 18:00 香川大学幸町キャンパス正門（ セブンイレブン側 ）

配布資料 ： 骨髄バンクパンフ 50 部　　献血パンフ 50 部

参加者 ： 日本骨髄バンク 地区普及広報委員の三好輝徳さん

地区ローターアクト代表 濱田理沙 （ 松山RAC ）



とても有意義な講演会になったと、喜んでおります。香川大学ローターアクトクラブ会員さんも真剣に視聴して頂き、講師の後藤さんと三好さんも気持ちよくお話をされていました。
白血病の患者さんの苦しみ、骨髄移植のしくみ、ドナー提供者の気持ち、などいろいろな思いが伝わったように感じられました。　　ありがとうございました。

第3回　命の授業　　報告　　2022 年 12 月 7 日

□ 坂出第一高等学校

校長 三谷雄治　担当3年団主任　秋山道彦　理事長 花岡氏（坂出 RC）

日時 2022 年 12 月 07 日(水) 10:45～11:35　50分間

講師 大谷貴子（公益財団法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 顧問）

演題 日本骨髄バンクについて

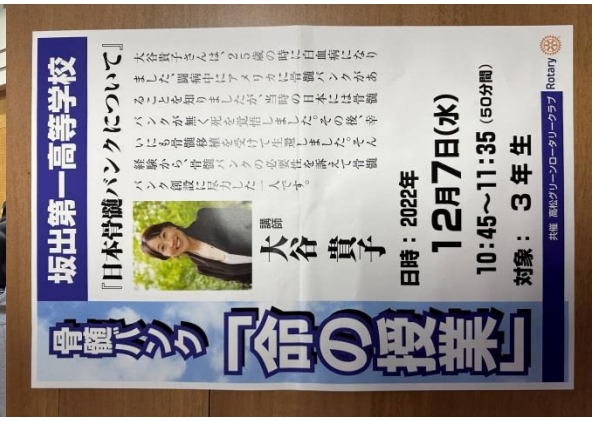
対象 3年生　138　名

場所 4号館　5F　記念館

住所　〒762-0032 坂出市駒止町 2 丁目 1-3　　TEL 0877-46-22157

骨髄バンクパンフ　150 部　・　献血パンフ　150 部

西日本放送　RNC　NEWS EVERY



「自分も誰かの為になりたい。」「思ったことは、動いてみる。行動あるのみ」生徒

大谷様のご講演は、非常にパワフルで、生徒たちは骨髄バンクの重要性は勿論の事、前向きな生き方についても教えていただき、非常に得るものが多かったと思います。

今後、献血車の学校導入について、検討してまいりたいと思います。

坂出第一高等学校　校長　三谷雄治

『　献血支援事業　』　報告　　2023 年 1 月 11 日

□ 香川大学　創造工学部

冬場の献血の少ないこの時期に献血バス支援事業を開催する。

日時 2023 年 1 月 11 日(水) 12：00～14：00

場所 香川創造大学工学部　林町キャンパス

〒761-0396 高松市林町２２１７－２０　TEL ０８７－８６１－２０００

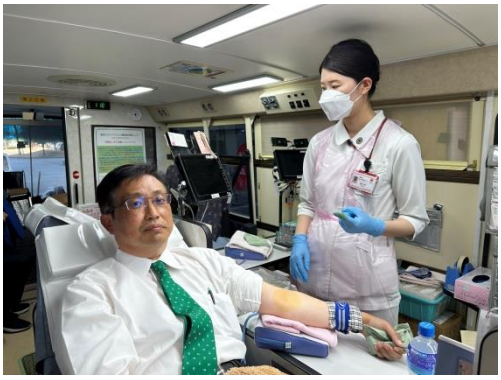
内容　① 献血を呼びかける。

② 2/1 の香川大学講演会のＺＯＯＭ参加周知、講演会チラシ配布

③ 献血をしてくれた学生に記念品を渡す。

準備　；　看板・のぼり・講演会チラシ 100 部・記念品（どん兵衛 ）

献血者数　受付 ： ４５名　採血 ： ４２名



第4回　香川大学『　命の授業　』講演会報告　　2023 年 2 月 1 日

□　名称 香川大学 命の授業『ヘルストピックス講演会』

形式　会場と ZOOM でのオンライン配信

担当 副学長 山神眞一 氏　　学生生活支援課長 成重伸昭 氏

日時　2023 年 2月 1 日(水) 15:00～16:30

講師　大谷貴子 ・ 演題 白血病からの生還～命をつなぐバトン～

場所　香川大学 イノベーションデザイン研究所

高松市番町 4 丁目 8-27　TEL 832-1507

・　グリーン会員もＵＲＬよりオンラインにＺＯＯＭ視聴参加

記念事業　企画書（案）　　2022.3.版

事業名	（仮称） 骨髄バンク応援団 「命の授業　～見知らぬ誰かを救い隊～」
企画素案	副実行委員長　　伊藤司朗
実施企画	実行リーダー　濱田吉隆　　副リーダー　清水清隆 ・ 早川幸宏
報告日・改訂回	素案 2022.1.13　　実施案 2022.3 月　　実施決定案 2022.5 月　　・改訂回数　2回目
事業の狙い （目的･意義）	白血病で苦しむ人たちを少しでも助けるために、次世代を担う若い方々を対象に、 命の授業･講演会を実施する。その講演会を通じて、骨髄移植経験者の講師から 白血病の現状やその問題点について話してもらい、骨髄バンクや移植医療システムや献血の必要性を知ってもらいたい。質疑応答を通じて、疑問や思い込みや誤解を解消してもらい、若い人たちが安心して積極的に、ドナー登録や献血に参加するきっかけとなる講演会を実施したい。
事業概要 日時、場所、 内容、 関係先、受益者、協力（委託）先、問題など	２０２２年９月～１１月の間に、県内の高校、大学、専門学校で講演会を実施する。 講師は、全国骨髄バンク推進連絡協議会役員の大谷貴子さん。 協力は、香川県骨髄バンクを応援する会と香川県赤十字血液センター。 香川大学学長の筧　準備委員会委員長に紹介していただこうと思っています。 まずは実行委員会とクラブ幹部とで各大学等に出向き、挨拶と事業の主旨を説明し 正式な講演会開催の依頼をする。
準備工程、 会員の動員予定など	まずはターゲットに趣旨を説明し、学校の授業の一環として取り上げてもらうべく交渉する。
予算	未定　～４００００００円～？ 　主に講師の交通費、看板代、印刷費
事業成功時の 成果（期待目標）	講演会を視聴する人たちが 正しい骨髄バンクの知識を持ち、理解した上でドナー登録や献血に参加してくれる事。 また他者を理解したり、自分にも他人の助けになれると思える機会になってほしい。 そして、それが、いつの日か誰かの命を助ける結果となれば、とても良い社会奉仕事業になると期待している。
	当クラブにとって、この「命の授業」は 社会奉仕事業伝統の「災害に備えて」「青少年奉仕」「環境」等の一つのテーマです。 会員全員参加で奉仕活動を通じて創立３０周年の当クラブを盛り上げていきたい。
その他	コロナ禍のなか、学生さんたちの環境も変化し、経済面の困窮や学校の授業のリモート化も進んできています。今回の命の授業も、その変化に合わせて、映像をインターネット配信することも併用して、より広く活動を認知してもらう為の知恵を出し合って活動します。